

Top Message	環境・CSR本部長 メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境経営	グリーン調達	環境リスク最小化に向けた取り組み	社員への環境教育・啓発活動	社会とのコミュニケーション				

社会とのコミュニケーション

お客様、社員、お取引先、株主・投資家、国際社会・地域社会など、多様なステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに努めています。

有識者との対話「環境ダイアログ」

富士通グループは、社会の変化やニーズを反映した環境経営を推進していくために、幅広いステークホルダーの皆様と対話する機会を持ち、確かな信頼関係を築いていくことが重要であると考えています。

その一環として、「環境ダイアログ」を2011年度より開始。NPO、大学、メディアなど様々な分野から有識者をお招きし、「環境」を軸とする様々なテーマで対話を重ねています。これまでダイアログの開催は28回（2017年3月現在）を数え、延べ84名の有識者の方々と対話を進めてきました。

■中長期環境ビジョンのシナリオを議論

2016年度の環境ダイアログでは、2017年5月に発表した中長期環境ビジョンの策定に向け、情報収集や策定したシナリオについて有識者の方々と意見交換を行いました。ビジョンの策定にあたっては、「パリ協定」を踏まえ、2050年に向けて自らの事業所でどのようにしてゼロエミッションを実現するかを最大のテーマと位置付けました。

ゼロエミッションの実現可能性については、省エネ、再生可能エネルギー（再エネ）の動向、日本政府の長期技術戦略について有識者と対話し、今後の鍵となる要素技術や地域と連携したエネルギーの有効利用の方法などアドバイスをいただきました。また、低炭素から脱炭素（＝ゼロエミッション）への移

2016年度のテーマ

- 【第1回】ゼロエミッション実現可能性について
～技術的視点から～
- 【第2回】再生可能エネルギーの導入シナリオ
- 【第3回】世界の環境ファイナンスのトレンド



2017年3月開催の第28回環境ダイアログの様子

行には、省エネに加え、再エネやクレジットの活用が重要になると考えられることから、世界の再エネの導入状況、導入促進制度、JCMなどクレジット制度の動向などについて情報を伺い、意見交換を行いました。

これら外部の有識者からいただいたご意見や議論も参考にしながら、富士通グループとして中長期で実現すべきターゲットとして、2050年に向けた自らのゼロエミッションを実現するビジョンシナリオを策定しました。今後は、中長期ビジョンの実現を目指すとともに、ICTを最大限活用して社会に貢献していきます。

ファシリテータの声

今年度の富士通ダイアログは「ゼロエミッション社会の実現」を念頭に、エネルギー技術・環境ファイナンスのテーマで3回開催しました。各分野の第一人者の有識者から最新動向や展望を聞くだけでなく、じっくりと議論を重ね、具体的な実践につながる場となりました。関連部門を巻き込んでのダイアログが実現したことは、全社的な展開の求められるSDGsやESG投資などへの取り組みの土台にもなったことと思います。

時代と社会の要請に応えるための環境ダイアログも5年目を迎え、28回を数えます。富士通が社会課題と真摯に向き合い、社会とともに解決に向けて対話・共創する場を続けてきたことが、社会からの信頼につながっています。同時に、社外のステークホルダーと直接対話することで、社員が社会との関わりを深く考えるきっかけとなっていると確信しています。

2050年に向けて、自社のゼロエミッションを実現するという高い目標を掲げたことに敬意を表します。技術や製造、営業、調達や財務部門などが総力を挙げて脱炭素経営を実現しつ



つ、企業価値と競争力を高めていくために、また、独りよがりにならず真に社会に資する取り組みを進めていくために、今後も環境ダイアログの場が大いに活用されることを期待しています。

東京都市大学環境学部 教授
幸せ経済社会研究所 所長
枝廣 淳子 氏

Top Message	環境・CSR本部長 メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境経営	グリーン調達	環境リスク最小化に向けた取り組み	社員への環境教育・啓発活動	社会とのコミュニケーション				

社会とのコミュニケーション

外部からの表彰

社会の持続可能な発展を目指す富士通グループの様々な取り組みは多方面から高い評価を受けており、多くの外部団体・機関などから表彰されています。

■第7回「キャリア教育アワード」優秀賞を受賞

富士通では、2006年より日本各地の小中学校で環境出前授業を行っています。

今できることだけでなく、将来の仕事の中で自らが担う環境活動について考える「将来のシゴトとエコ」など、キャリア教育とリンクしたプログラムが総合的に評価され、「キャリア教育アワード」優秀賞を受賞しました。



2016年度 外部表彰一覧

表彰機関・団体	受賞名	応募案件/応募タイトル
フジサンケイグループ／ 経済産業省、環境省、文部科学省、国土交通省、 農林水産省、日本経済団体連合会	第26回 地球環境大賞 大賞	・環境経営（第7期行動計画の成果と第8期行動計画） ・世界最小・最高効率ACアダプター「GaN-HEMT」
LCA日本フォーラム／ 経済産業省、日刊工業新聞社	第13回 LCA日本フォーラム表彰 LCA日本フォーラム会長賞	富士通グループにおける資源効率向上の取り組み
環境省／ 地球・人間環境フォーラム	第20回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 優秀賞	富士通グループ環境報告書2016
日本自然保護協会／ 環境省、国際自然保護連合日本委員会、 国連生物多様性の10年日本委員会	平成28年度 日本自然保護大賞 選考委員特別賞	ICTを活用した絶滅危惧種シマフクロウの 生息保全支援
経済産業省／ キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会	第7回 キャリア教育アワード 優秀賞	環境出前授業「将来のシゴトとエコ」 ～キャリア教育×環境教育～

■第26回「地球環境大賞」大賞を受賞

富士通グループの環境行動計画のこれまでの実績と、「窒化ガリウムを活用した世界最小・最高効率のACアダプター開発」がもたらす省エネ効果の大きさが評価され、「第26回 地球環境大賞」の大賞を受賞しました。



日枝久・フジサンケイグループ代表からトロフィーを授与される田中達也・富士通社長



窒化ガリウム(GaN-HEMT) ACアダプター

展示会・イベントを通じたコミュニケーション

国内外の展示会やイベントを通じて、お客様やステークホルダーの皆様に対し、地球環境課題の解決に向けた富士通グループの取り組みを紹介しています。

2016年度に出展・参加した主な展示会・イベント

- 国際エコプロダクツ展 タイ／2016年6月
- UNFCCC 気候変動への適応EXPO ドイツ／2016年7月
- ITU Green Standard Week ウルグアイ／2016年9月
- サステナブル・ブランド国際会議 東京／2017年3月

■「デジタル革新」によるサステナビリティへの貢献について講演

米国発の国際会議「サステナブル・ブランド国際会議」が、2017年3月に日本で初めて開催されました。富士通からは、谷口副社長と金光環境・CSR本部長が基調講演やディスカッションに登壇。富士通はデジタルテクノロジーを活用し、お客様と新しいビジネスモデルをCo-creationすることでサステナブルな社会の実現を目指していくことを、最新の事例を交えて紹介しました。



基調講演を行う谷口典彦・富士通副社長

Top Message	環境・CSR本部長 メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
環境経営		グリーン調達		環境リスク最小化に向けた取り組み		社員への環境教育・啓発活動		社会とのコミュニケーション

社会とのコミュニケーション

社会貢献活動

■熱帯雨林再生活動

富士通グループでは、2002年からボルネオ島のマレーシア サバ州にある「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレスト パーク」で、サバ州森林開発公社(SAFODA)の支援を受けながら、熱帯雨林再生プロジェクトに取り組んでいます。2016年12月には、長年にわたる森林保全活動が実を結び、サバ州議会より同州の「保存林」として認定されました。

これまで、約150haの土地に在来種であるフタバガキ種 37,500本を植えてきました。社員とその家族、現地大学、専門学校、日本人学校の方々など、プロジェクトに関わってきた人数は延べ2,000名以上に上ります。2007年以降は、育成フェーズに入り、苗木を育てるためのメンテナンス活動を行っています。



富士通グループの熱帯雨林再生活動への参加者

■社員ボランティア参加によるワイン作り

奥野田葡萄酒醸造株式会社ワインファーム内にある「富士通GP2020ワインファーム」(山梨県)にて、富士通グループ社員とその家族が農作業のお手伝いをしています。世界のワイン造りを目指すオーナーとともに、日本では難しいといわれているカベルネ・ソーヴィニヨンの栽培に挑み、富士通GP2020ワインを作っています。

生物多様性に配慮した農法を推進する農家での活動をおして、生物多様性保全を学ぶことや、農作業を楽しみながら、農家や農山村(里山)が抱える問題の理解を深めることを活動の目的としています。

2016年度は、富士通グループ社員とその家族、延べ178名が早春の「枝の剪定」から秋の「ブドウの収穫」まで、一連の圃場作業に参加しました。



ワインファーム「ブドウの収穫」への参加者

外部団体との連携

富士通グループは、国内外の外部団体に積極的に参加することで、持続可能な社会の実現に向けたグリーンICTの普及や活用の推進に取り組んでいます。

主な参画組織

WBCSD(持続可能な発展のための世界経済人会議)： 交通・運輸領域の評価指標の検討や 各種ソリューションの具現化を推進
グローバル・eサステナビリティ・イニシアティブ (GeSI)： ICTがサステナビリティにもたらす可能性について 包括的な分析を行ったレポート「SMARTer2030」に貢献
ITU-Tの「ICTと気候変動グループ(SG5 WP3)」： グリーンICTの普及拡大
ITU-Tの「IoT及びスマートシティ・コミュニティを含むその応用(SG20)」： IoT関連やスマートシティ・コミュニティなどの標準化を検討
ISO TC286 SC1 (Smart Urban Infrastructure Metrics)： スマートコミュニティにおけるインフラ評価方法構築や ICT役割明確化を推進
「GHGプロトコル製品ライフサイクルの算定及び報告基準(ICTセクターガイダンス)」の運営委員会： ICTライフサイクルの環境影響を評価
データセンターの評価指標に関する日米欧の国際協調会議： データセンターの環境配慮の促進
JEITA環境部会： 製品・サービスの貢献量評価手法の確立に貢献